

業界初! フロントコンピュータ連動型 キャッシュレス精算システムリリース

ビックリック(株)

ビックリック(株)は、全自動予約受付システム「Loveho Butler」(ラブホバトラー)の提供に加え、昨秋からホテル運営に合わせたオーダーメイドシステムを構築するコンサルティング業務を本格的にスタートさせた。さらに同社は、現在、多くの経営者が悩んでいるキャッシュレス化に対応するシステムを2月にリリースする。

本稿では、同社のシステム構築の考え方とキャッシュレス化対応システムの内容をレポートする。

■システム主導から運営主導へ

現在のレジャーホテルは、自社が求める運営方法にマッチしたシステム化を図ろうとしても、「カスタマイズができない」「異なるメーカーのシステムをジョイントできない」等々の理由から、既存システム側に合わせざるえない状況にある。

このようななか、同社は、IoT 関連の各種システム・製品を既存システムに追加・組み合わせることで、運営形態に合わせたオーダーメイドのシステムが構築できる「ビックリック・マネジメントシステム」を自社開発しグループホテルに採用。同社のホテルシステムに対する考え方や実際のシステムに賛同する経営者は多く、昨秋から他社ホテルに向けたホテルシステム全般にわたるコンサルティング業務をスタートさせたのだ。

■キャッシュレス精算システム

2020年3月までに自動精算機のクレジットカード端末の変更が求められている。単純に磁気からICに変わるというのではなく、世界的なセキュリティ基準である PCI-DSS 規格に準じな

<コンピュータと連動するスマホQRコード決済システムをリリース>



客室テレビ・専用端末にてQRコード決済を実現。自動精算機の改造・交換に比べ安価に客室QRコード決済の導入が可能



ビックリック(株)取締役・タナカケンゴ氏。グループ店舗の店長経験を活かし、経営・運営視点でシステムを構築

ければならない。その際、自動精算機の改造・交換の費用に加え決済専用の LAN 配線工事も必要となり、高額な追加投資が必要となる。

さらに、他業種ではスマホによる QR コード決済が一般化している。採用を検討しながらも、フロントコンピュータと連動しないなかでどのように対処すればよいのか、多くの経営者が頭を悩ませているのが現状だ。

現在リリースされている QR コード決済は、お客様との対面を前提に構築されており、レジャーホテル客室内での決済に利用するのは困難な状況だ。レジャーホテルで利用するには、QR コード決済時の客室の特定や QR コードの複製防止も必要となる。これらにも同社がリリースするキャッシュレス精算システムは対応する(キャッシュレス決済手順における特許申請済み)。つまり、同社のキャッシュレス精算システムなら、QR コード決済は、客室内での QR コード読み込み→決済→フロントコンピュータと連動→電気錠開錠→チェックアウト、という従来と変わ

らない使い勝手を実現できるのだ。

また、従来通りの客室内の読み込み端末によるクレジットカード決済も準備中だ。こちらも、もちろんフロントコンピュータと連動し、さらにクレジット決済手数料も既存手数料より安価で提供の予定だ。

同社取締役・タナカケンゴ氏は「予約システムの Loveho Butler からキャッシュレス決済まで、現在使用している既存システムに低コストで機能を追加することで、各ホテルの運営ニーズにマッチさせながら、お客様を自動で集客・チェックイン・決済・チェックアウトできるシステムの構築が可能です。ぜひご活用していただきたいと思います」と語る。

時代の流れでもあるキャッシュレス化に対応する解決手法としても、ぜひ注目したい。

[問合せ]
ビックリック(株)
東京都中央区築地 6-19-21
問合せは下記ホームページから
<http://biclick.jp>